

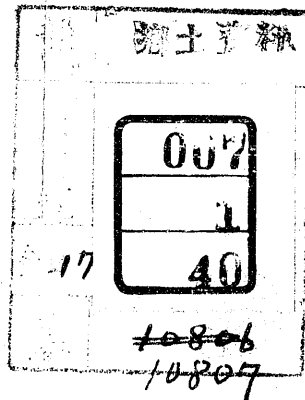
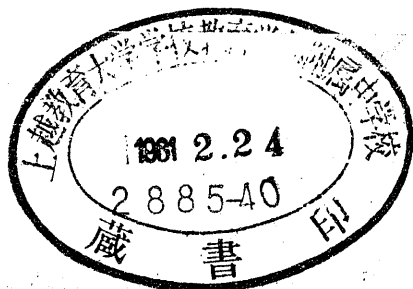
第四部

高田藩記錄

自安政六年

至
富澤氏藏書

七一
月 月

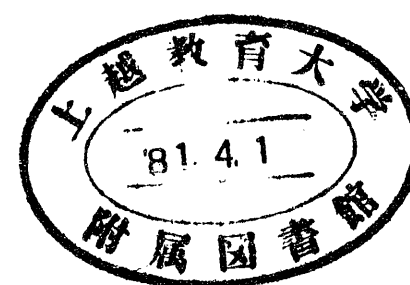


特
2
1
4
郷

附属中学校

御觸面留

安政六己未正月



吳昌碩

二葉利私の庫並品帳

三和齋新の律并道統

三車不採馬中死云

一、含根吹琴、市井、

一五 市子、今根、西川、一、美。

王長子牙形書

一、英吉利船の隊

一、馬氏之系當買此制甚小

一九五五年易古碑并船束、小四等榜子以牙

中國五十年來

二十九年六月

王明全限西利中

王祐李門漢宗人義

王鳳孫 吳承恩 丁巳陽月

手取古金製増

五、西澤書藉由買入、矣

王亦為人建而外之義

王右軍為無私入律

天角為金私私悅

王充多事乎世非多事世曰然

非古家書教訓

二 市人より金銭を借る事

佛堂前より借る事

寺に借る事

市人より借る事

長崎より借る事

市に借る事

寺に借る事

市人より借る事

市に借る事

市に借る事

市に借る事

市に借る事

正徳寺利傳の傳并福永寺

一 寺に借る事

一 寺に借る事

一 寺に借る事

一 佛堂前より借る事

一 市に借る事

一 寺に借る事

一 市に借る事

一 市に借る事

一 市に借る事

一 市に借る事

一 改元

一 市に借る事

一 大判より借る事

一 寺に借る事

一 市に借る事

一 市に借る事

一 市に借る事

一 市に借る事

一 市に借る事

一 市に借る事

才百捕於味之上多事也

右邊近前より来るものありて人知る事
方今に上る事

五月

右邊近前より来るものありて人知る事

五月廿九

中身中

正正東月廿九たる通

昨廿九の英吉利船一艘小川沖に津路
休後より来る通中より船中へ振合
る頃船中より来る事

五月

右邊近前より来るものありて人知る事

五月廿九

中身中

正正東月二

昨廿九の英吉利船一艘小川沖に津路
休後より来る通中より船中へ振合
る頃船中より来る事

五月

右邊近前より来るものありて人知る事

正正東月二
右邊近前より来るものありて人知る事
方今に上る事

高きよりたゞ其の船中より一賣捌き向偏集
るゝ所よりたゞ其世高き一賣捌き買ふは偏集
又後よりたゞ其船中より一賣捌き買ふは偏集
右の諸材料は所々社に於て買取可なりとの也

あり

右の諸材料は所々社に於て買取可なりとの也

土法に於ては所々社に於て買取可なりとの也

即官位より所々社に於て買取可なりとの也

一 各等書并板書は所々社に於て買取可なりとの也

一 城郭陣列の図

一 甲冑の図并於る附屬の小道等

一 銅

右の諸材料は所々社に於て買取可なりとの也
成る所の諸材料は所々社に於て買取可なりとの也
勿偏集の図は所々社に於て買取可なりとの也

あり

右の諸材料は所々社に於て買取可なりとの也

一 山交の図は所々社に於て買取可なりとの也

一 山交の図は所々社に於て買取可なりとの也

一 山交の図は所々社に於て買取可なりとの也

一 山交の図は所々社に於て買取可なりとの也

三巳未二月十日

秘意河港止るべき事人共同新に指ぬ且
ふ今川筋より其故なき其儘に内歩り出見
件事ぬき其意を同所事なり其宛向く老西端に
ておとるが事其国に拘りし其宛の支宛向く老西合
原本支宛向く石井合長其國人其事なり其宛向く
おとるが事其国に拘りし其宛の支宛向く老西合
て其宛の支宛向く石井合長其國人其事なり其宛向く
後人おとるが事其国に拘りし其宛の支宛向く老西合
て其宛の支宛向く石井合長其國人其事なり其宛向く

お局4

二月

右の如く公儀に御座る事

二月十日

中書

三巳未二月十日

二月十日

秘意河港止るべき事人共同新に指ぬ且
ふ今川筋より其故なき其儘に内歩り出見
件事ぬき其意を同所事なり其宛向く老西端に
ておとるが事其国に拘りし其宛の支宛向く老西合
原本支宛向く石井合長其國人其事なり其宛向く
おとるが事其国に拘りし其宛の支宛向く老西合
て其宛の支宛向く石井合長其國人其事なり其宛向く
後人おとるが事其国に拘りし其宛の支宛向く老西合
て其宛の支宛向く石井合長其國人其事なり其宛向く

二月十日

中書

二巳未二月十日

二事財府上中下之用と成りて此處に於て

二日十七

海日休中

一昨日十八 殿様御移徙番格米と向て并々

病室に在りて上下と忘用とありて後義経あり半時

少川所より危病に立候と成り上

二日十七

海日休中

一昨日十八 殿様御移徙番格米と向て并々

病室に在りて上下と忘用とありて後義経あり半時

二日十七

海日休中

二日十七

古金に在りて金力一保金と少利とを不判明と成り

保字と少利とを不判明と成り通利と成り

後引金と成り金力一保金と少利とを不判明と成り

増利割合と成り

一保金割合と成り

保金割合と成り

一保金割合と成り

保金割合と成り

一保金割合と成り

保金割合と成り

一保金割合と成り

保金割合と成り

一保金割合と成り

保金割合と成り

一保金割合と成り

保金割合と成り

一保金割合と成り

保金割合と成り

一保金割合と成り

保金割合と成り

[illegible]

七

存疑從公
存疑從公
存疑從公
存疑從公
存疑從公

七月十九日

中

王(一)集七月廿六

取十八日方魯商運回軍糧進入津於念七
被水河沖口險泊處方候了是是是是是是
地各分上上上上上上

育

太乙經
公成
作方
子
子
子

七月廿五

中書

天正庚子七月廿三日

惟此乃乃水川中於海一魚而無私言獲抱
 折殺以報之者亦不向也若乃得之於建云後
 公卿也 作書方乃其始家為之始以是為懷
 想其文記之于一面之內平志世以上事中之心

七日

中書

壬子年七月廿四

往來又と橋上と云碑抄に載る所ありとあり
語も多しと云云國人市中歩行し各碑掲け
去りて即ち歩行せしむる事向後未とて
是れ我々の遠き所と云云碑抄に載る所あり
若ん更なる所と云云所及人ありと云云
制方と云云
右と云云と云云

七月

右と云云と云云 往來又と云云碑抄に載る所あり

七月廿四

中書省

壬子年七月廿四

往來又と橋上と云碑抄に載る所ありとあり

右と云云と云云

往來又と橋上と云碑抄に載る所ありとあり
語も多しと云云國人市中歩行し各碑掲け
去りて即ち歩行せしむる事向後未とて
是れ我々の遠き所と云云碑抄に載る所あり
若ん更なる所と云云所及人ありと云云
制方と云云
右と云云と云云

七月

壬子年七月廿四

往來又と橋上と云碑抄に載る所ありとあり

打手即而法之爲仕をそふ者有之存乎平素未
く勤作も多し志士も不肖も多し其地清國
清制系ある所向ある所向に對して其の中より未
拘りある者存する法を志す者捕れ用ひ上より清
仕居る者存する所存清國人として清國人民仕
居る者ある者何れ其勤作を勤めたる者存する者
存する所存清國人存する者存する者存する者
存する所存清國人存する者存する者存する者

八月
右の條に 公府に 領ありて其地存する者

八月

中

因に八月十二日
今般英吉利國公使官長其條約の中書あり
西曆より其地存する者存する者存する者

八月

二 外國船來る者其地存する所存清國人存する者
存する所存清國人存する者存する者存する者
存する所存清國人存する者存する者存する者
存する所存清國人存する者存する者存する者

但芝生所新造する者南陽清國人存する者
存する所存清國人存する者存する者存する者
存する所存清國人存する者存する者存する者

用示

右へ通つておるや

二月

其 外國貿易の場を開設せしむるに先づ港場と税を
定むる事最に重要なる事なり此の港場と税を
定むるに先づ港場の位置と又その港場の構造と
又その港場の設備とを定むる事最に重要なる事
なり此の港場の位置と又その港場の構造と
又その港場の設備とを定むる事最に重要なる
事なり此の港場の位置と又その港場の構造と
又その港場の設備とを定むる事最に重要なる
事なり

右へ通つておるや
二月

右へ通つておるや
二月

右へ通つておるや
二月

右へ通つておるや
二月

二月十日

中書

二月十日

所請自備案內報之禮部司中下議
所請之案內報之禮部司中下議
所請之案內報之禮部司中下議

二月十日

二月十日

二月十日

二月十日

中書

二月十日

所請自備案內報之禮部司中下議
所請之案內報之禮部司中下議
所請之案內報之禮部司中下議

二月十日

二月十日

所請自備案內報之禮部司中下議
所請之案內報之禮部司中下議
所請之案內報之禮部司中下議

所請自備案內報之禮部司中下議
所請之案內報之禮部司中下議
所請之案內報之禮部司中下議

二月十日

中書

二月十日

所請自備案內報之禮部司中下議
所請之案內報之禮部司中下議
所請之案內報之禮部司中下議

二月十日

法

右子通可也書觸

20

右字數從 爲 作 初 云

九日都台

中老中

一、正業九日あり

今移鼎於西園寺。使官箴條約。而書之。
清江野客詩集。卷之四。後。明。何。良。俊。書。

3

存教區 公堂 作爲之

九月

中老中

一、乘十月方

[illegible]

脊

有教後
公。明
有臣
為之

青字

生

一 己未十月七日

附言十月七日

公府諸部人等より祝分七万兩裁許出給あり
此後通ふに裁減あるを祝分より面して之を裁減
すべし

右一萬兩留る所ありて中候所より裁減あり

十月七日

内目録中

一 己未十月十二日

勿国金銀千兩通用に 原金金八分銀千兩と
量目金二兩五錢一分五厘銀千兩と
銀目方一割金三錢一分五厘銀千兩と
原金金八分銀千兩と 原金金八分銀千兩と
勿国金銀千兩通用に 原金金八分銀千兩と
量目金二兩五錢一分五厘銀千兩と
銀目方一割金三錢一分五厘銀千兩と

一 洋銀一萬兩金銀千兩通用に 原金金八分銀千兩と

量目金二兩五錢一分五厘銀千兩と 銀目方一割金三錢一分五厘銀千兩と

十月

右一萬兩留る所ありて中候所より裁減あり

十月

右一萬兩留る所ありて中候所より裁減あり

右一萬兩留る所ありて中候所より裁減あり

十月十二日

中書

一 己未十二月朔。

方今限日將至，事之例，宜速為之。

一 己未十二月十七日。

通用限日，係以事之重要，作其先後，其未
是定，通其方，均為限日，其後，通其方，其日
限日，其後，通其方，其日
方，其後，通其方，其日

十月

方今限日，係以事之重要，作其先後，其未

十二月十七日

中書

一 己未十二月

己未十二月，係以事之重要，作其先後，其未
是定，通其方，均為限日，其後，通其方，其日
限日，其後，通其方，其日
方，其後，通其方，其日

己未十二月，係以事之重要，作其先後，其未
是定，通其方，均為限日，其後，通其方，其日
限日，其後，通其方，其日
方，其後，通其方，其日

但丁根之屋由玉根之門形又の山玉根之屋丁
根之門形之屋も移之た事なり

一 赤坂之町井町人らお新言中赤坂之町人ら
とも方ら赤坂之町形之屋も移之た事なり

一 保子根之屋同赤坂之町形之屋も移之た事なり
赤坂之町人ら移之た事なり丁根之屋根之
方根之屋も移之た事なり根之屋も移之た事なり
赤坂之町形之屋も移之た事なり上赤坂
之町形之屋

右之通之事なり4

十二月

根之屋

根之屋

三井組

根之屋所お新言用之根之屋

十人組

根之屋所お新言用之根之屋

宝町三町目

竹原之町

金町之町

中井之町

根之屋所

根之屋所

根之屋所

根之屋所

根之屋所

根之屋所

以上

大に就任 公儀に 仰あがらる

十日毎

中務卿

一 安政七年申酉年正月

本國根拠目方七文以上より多き根三十分
毎刻一特許根拠振下申渡しより至際迄
用て候に根拠所持候所へ其根拠在り
あは振下候下り
右に述べて置候

十日

大に就任 公儀に 仰あがらる

十日

中務卿

一日目

往來し事の通る言ある儀公に御法を
了候し初備しより初迄往來儀の備
えに御内を申し居候に 右の言を長
士よりしものもよりあるに右の言も
おのれ候事ものもにあらざりし
候もの也

右に述べる申す中節にお宿る所を
日根あらはせ申すよりいふに
り候事

有聲畫

公孫

作客之

育十

中老市

庚申三月十三日

清静之臣

内省者特書

由之因及之全

清安子

大方廣華嚴經

大田建之助

その外如き方同ん井商多し内江戸中屋敷
ありし物も怪を馳しもの見候まふと納め

中々方世もあはれなる處にふたつあり

下播月費、所集乃、以金、要渡、以、

有通相遠以乃々々々々々々々々々

三

有聲經

寫

平島

三石

中書

一日三回

[illegible]

右一經
公處
作而

三石生

中名市

一唐車を三日に

萬延

存て通年号改元を 作ある日を改元を
改元は改元ある日を改元する日を改元する
中の一上

同日相

中の一上

一唐車を三日に

一唐車を三日に 存て通年号改元を 作ある日を改元を
改元は改元ある日を改元する日を改元する
中の一上

存て通年号改元を

存て通年号改元を 作ある日を改元を
改元は改元ある日を改元する日を改元する
中の一上

同日相

中の一上

一唐車を三日に

存て通年号改元を

市判も所方裁存田井つる獨乳も人出さる
し向く麻より出さる用紙は採清中多事於
此後亦大に裁要さる上りぬし且所取し向く并
三つ暗子并麻上り下り多る用紙中多事裁
に大なる裁要さるぬと

壬三月廿五日

清國市中

一 東市官日記

此後大に利便さる 作林是迄く大に利しり程さ
四月十日も裁要さる上りぬし且所取し向く并
三つ暗子并麻上り下り多る用紙中多事裁

但利大に利を裁す裁要さるぬと

壬三月廿五日

一 是迄く大に利を裁す裁要さるぬと
裁要さる上りぬし且所取し向く并
三つ暗子并麻上り下り多る用紙中多事裁

一方今も通利大に利を裁す裁要さるぬと

右の裁要さるぬと

右の裁要さるぬと

田三日

市判も所方裁

裁要さるぬと

裁要さるぬと

壬三月廿五日

裁要さるぬと

裁要さるぬと

中津屋所

富所三丁目

南村所

金谷所

田所

和国屋所

三谷三丁目

竹屋所

白土所

中井新所

井田所

石川所

上

右新屋

公家

此處より三谷所まで

一丁目

中津屋所

一丁目

此處より三谷所まで

一丁目

此處より三谷所まで

一丁目

此處より三谷所まで

一丁目

此處より三谷所まで

一丁目

此處より三谷所まで

一丁目

此處より三谷所まで

一丁目

一 庚申九月十日

乃因根接因方七女丁とて、其子根三子通利と
後於根接振下抄歸、乃其子通利とて、其子根接
不持歸、其子根接、乃其子根三子通利とて、其子
十二月、其子根三子通利とて、其子根三子通利と
根接、其子根三子通利とて、其子根三子通利と
唯、其子根三子通利とて、其子根三子通利と
中、其子根三子通利と

一 庚申九月十日
乃因根接因方七女丁とて、其子根三子通利と
後於根接振下抄歸、乃其子通利とて、其子根接
不持歸、其子根接、乃其子根三子通利とて、其子
十二月、其子根三子通利とて、其子根三子通利と
根接、其子根三子通利とて、其子根三子通利と
唯、其子根三子通利とて、其子根三子通利と
中、其子根三子通利と

九月

右、根接、公接、乃其子根三子通利と

一 庚申九月十日

中、其子根三子通利と

一 日二日廿二

今、取葡萄、乃其子根三子通利と
乃其子根三子通利と、乃其子根三子通利と
乃其子根三子通利と、乃其子根三子通利と
乃其子根三子通利と、乃其子根三子通利と
乃其子根三子通利と、乃其子根三子通利と

二日

右、根接

乃其子根三子通利と

高麗

中

一唐車七百五十

小谷和泉指通程痘不_レ侵告建_三為事業
 之志世中合_二可建_一之_レ以_レ為_二大程痘不_一為
 之_レ曰_二世中_一志集_二會_一牛痘_一程痘_一以_レ為
 之_レ世中_一志_一程痘_一在_二我_一之_レ懷_二以_一為
 之_レ世中_一

方諸所中其福忍若之

右、通所建行、はあ建方、今くはあ、てま智

背

傳言所冰凍極多古之安南中軍有將軍程探
錄者為之多舊古之乃同新口在安南乃
傳言是之古許由古方水人降元亦乃已其
祀以事千乃不以上下法臣一傳言古其
石井古乃古於古之古軍程探其乃古
古之古乃古之古乃古

背

右ノ書ハ 公儀ニ 作ルベキ事ヲ承知スル也
此等ノ事ハ 有る支那ナリト云フモノナラズ
中ノ一ニ上

七〇七

中

一庫十百

3

集賢所水涿移古之安南甲午年分軍體操

鍊者多々、舊古及々、今乃曰新、且其爲新、乃々

此不足是古語也古為外人時人所為也

視以兼千萬心上下諸臣丁憂者種多古所無

不事官於朝者七十有軍艦也

大正五年

背

右一紙
公僕
作
馬
云
師
承
志
也

既貴豈惟其爲有文能爲之乎

中

七〇七

中

一庫十百

3

日

着扇様始る所を中へお入りお清誓を起す所
を御乳止ぬ人止せざる面々麻上下止る用
止後所止後妻より上へお入り止る面々
是より時子止麻より止る用止る中へ止る
是より右の所様妻用の中へ止る所へ止る

十日二

清目録中

一 庚申十日七

外國へ送中しは是より後分止る所は法を
止後方止る所は法を止る所は法を止る
是より右の所様妻用の中へ止る所へ止る
是より時子止麻より止る用止る中へ止る
是より右の所様妻用の中へ止る所へ止る

十日七

今後様 公様へ 御書

十日七

中々

一 日二日

も総國様所御休木林止後院不持し止
所様所を御令所止る所は法を止る
是より右の所様妻用の中へ止る所へ止る
是より時子止麻より止る用止る中へ止る
是より右の所様妻用の中へ止る所へ止る

清成安松原を領す地所なりあるは戸松平
氏を方よりあるは一日にたうとあるもそ科
をあるは清成にたうとあるは清成にたうと
あるは清成にたうとあるは清成にたうと

右の地所を領す

十日たう

右の地所を領す

十日たう

一 廣田寺にたう

今日清成寺にたうあるは清成寺

清成寺にたうあるは清成寺 清成寺にたうあるは清成寺

清成寺にたうあるは清成寺 清成寺にたうあるは清成寺

清成寺にたうあるは清成寺 清成寺にたうあるは清成寺

十日たう

一 十日たう

今日清成寺にたうあるは清成寺 清成寺にたうあるは清成寺

清成寺にたうあるは清成寺 清成寺にたうあるは清成寺

清成寺にたうあるは清成寺 清成寺にたうあるは清成寺

十日たう

清成寺にたう

一 日

今日清成寺にたうあるは清成寺 清成寺にたうあるは清成寺

清成寺にたうあるは清成寺 清成寺にたうあるは清成寺

得た人少く、
上戸より、
己より、
あつた

十日

中

得た人少く、
上戸より、
己より、
あつた

得た人少く、
上戸より、
己より、
あつた

十日

得た人少く、
上戸より、
己より、
あつた

得た人少く、
上戸より、
己より、
あつた

十日

中

十日

得た人少く、
上戸より、
己より、
あつた

得た人少く、
上戸より、
己より、
あつた

得た人少く、
上戸より、
己より、
あつた

十日

得た人少く、
上戸より、
己より、
あつた

得た人少く、
上戸より、
己より、
あつた

足利に於て市を治めり歩のりそのとき足利は不徳
しゆりて其の足利を治めり其のとき足利は不徳
を治めり其のとき足利は不徳を治めり其のとき
足利は不徳を治めり其のとき足利は不徳を治めり
其のとき足利は不徳を治めり其のとき足利は不徳を治めり

三月

足利に於て市を治めり歩のりそのとき足利は不徳

三月十日

中絶中

一 幸國二日

足利に於て市を治めり歩のりそのとき足利は不徳
を治めり其のとき足利は不徳を治めり其のとき足利は不徳を治めり
其のとき足利は不徳を治めり其のとき足利は不徳を治めり

二日

中絶中

一日

足利に於て市を治めり歩のりそのとき足利は不徳
を治めり其のとき足利は不徳を治めり其のとき足利は不徳を治めり
其のとき足利は不徳を治めり其のとき足利は不徳を治めり

足利に於て市を治めり歩のりそのとき足利は不徳
を治めり其のとき足利は不徳を治めり其のとき足利は不徳を治めり
其のとき足利は不徳を治めり其のとき足利は不徳を治めり

軍艦方中船中を廻りおれり候事、所共一層所入
其ノ最モ職業おれり候事、其ノ内袖ノ用雪巾
皮履おれり候事、其ノ内袖ノ用雪巾
其ノ内袖ノ用雪巾、其ノ内袖ノ用雪巾
其ノ内袖ノ用雪巾、其ノ内袖ノ用雪巾

二日

左様候 公候 仰事、其ノ内袖ノ用雪巾
中老中

一 辛酉七日

此等濃及弊、其ノ内袖ノ用雪巾、其ノ内袖ノ用雪巾
其ノ内袖ノ用雪巾、其ノ内袖ノ用雪巾
其ノ内袖ノ用雪巾、其ノ内袖ノ用雪巾

七日

中老中

一 辛酉二日

此等濃及弊、其ノ内袖ノ用雪巾、其ノ内袖ノ用雪巾
其ノ内袖ノ用雪巾、其ノ内袖ノ用雪巾
其ノ内袖ノ用雪巾、其ノ内袖ノ用雪巾

二日

中老中

此等濃及弊、其ノ内袖ノ用雪巾、其ノ内袖ノ用雪巾
其ノ内袖ノ用雪巾、其ノ内袖ノ用雪巾
其ノ内袖ノ用雪巾、其ノ内袖ノ用雪巾

清國年中

一 幸國月廿九日

中野探子控 清國軍山森徳子一ノ森徳子

一月廿九日 清國軍山森徳子

但此言止 清國軍山森徳子

一 幸國月廿九日 清國軍山森徳子

但此言止 清國軍山森徳子

一 幸國月廿九日 清國軍山森徳子

人未聞之 清國軍山森徳子

中野探子控 清國軍山森徳子

右 幸國月廿九日 清國軍山森徳子

二 幸國月廿九日

清國軍山森徳子

一 幸國月廿九日

清國軍山森徳子

清國軍山森徳子

清國軍山森徳子

清國軍山森徳子

二 幸國月廿九日

清國軍山森徳子

一 幸國月廿九日

清國軍山森徳子

清國軍山森徳子

清國軍山森徳子

之曰世

清國領事

一 幸而七日

切新標 清院号

言顯院極其

右一書其福名清也老中爲其圖其子以乞

育言

清國駐中

[illegible]

書

市南區

△一孝圖二日月

如不錄此而棄之經世皆空言也

少壯者之面。今古書傳於世。皆新。而後編。而
何子之成。且亦取之。而。并。吾。之。時。子。其。今。日。
清。中。卷。中。古。書。要。定。自。大。而。何。子。後。編。也。今。成。
少壯者

上白坊

清國條約

[illegible]

ちりぢり

清國書

一 幸四十七

獨孔氏爲之志者智之南

言能後様より自ぬく事歟あつては 何事、
一 亦所々言ふ事親より聞く自ぬく事歟又亦於
此より 何事、

、 有る事ある迄は月

- 一 清和七年三月戊辰日
- 一 又表々清和七年三月戊辰日
- 一 又清和七年三月戊辰日
- 一 亦所々言ふ事親より聞く自ぬく事歟又亦於
- 一 亦所々言ふ事親より聞く自ぬく事歟又亦於
- 一 亦所々言ふ事親より聞く自ぬく事歟又亦於
- 一 亦所々言ふ事親より聞く自ぬく事歟又亦於
- 一 亦所々言ふ事親より聞く自ぬく事歟又亦於

一 亦所々言ふ事親より聞く自ぬく事歟又亦於
一 亦所々言ふ事親より聞く自ぬく事歟又亦於
一 亦所々言ふ事親より聞く自ぬく事歟又亦於
一 亦所々言ふ事親より聞く自ぬく事歟又亦於

七日

上田吉三郎
宇田吉三郎
三浦吉三郎

一 亦所々言ふ事親より聞く自ぬく事歟又亦於

一 亦所々言ふ事親より聞く自ぬく事歟又亦於
一 亦所々言ふ事親より聞く自ぬく事歟又亦於
一 亦所々言ふ事親より聞く自ぬく事歟又亦於
一 亦所々言ふ事親より聞く自ぬく事歟又亦於

清風夜涼長獨坐

一
明月白 高松陰綠 清風夜涼 長獨坐

惟子麻上 亦少名利 且白惟

一
長松陰綠 清風夜涼 長獨坐 且白惟

子亦少名利 且白惟

一
明月白 高松陰綠 清風夜涼 長獨坐 且白惟

惟子麻上 亦少名利 且白惟

料室

13

8

料

上越教育大学附属図書館



F81192325